



「小さなドラマ」を重ね、自分自身を実らせる秋に

校長 山中 卓

朝晩の風に少しずつ秋の気配を感じるようになりました。長かった夏の暑さを乗り越え、インフルエンザの早期流行による学級閉鎖等では、ご家庭でのご対応・体調管理にご協力いただきありがとうございました。おかげさまで、体調を回復した子どもたちの元気な声が学校に戻り、日々の学校生活を送っています。

本校では、夏休み明けから「防災月間」として、様々な防災・安全の取組を実施しました。

8月31日には、全校で大地震を想定した防災教育を行いました。写真や動画を活用し、「地震が起きたとき、教室のどこが危険になるか」をみんなで予測しました。上からの落下物（蛍光灯や時計）や倒れてくる棚、割れる窓ガラスなどの危険に気付き、頭を守る「だんごむしポーズ」や机の脚をしっかりと掴む体勢などを確認しました。

また、9月17日には不審者侵入を想定した訓練を行いました。児童は「合い言葉」による放送や先生の指示を聞き、身を低くして静かに待機する行動をとることができました。教職員も事前に不審者への初期対応や通報・安全確保の連携について確認を行い、危機管理意識を高めました。ご来校の際は、今後とも保護者証（入校証）の着用にご協力をお願いします。

さらに、9月25日には4年生が「横浜市民防災センター」を見学し、疑似体験を通して災害から命を守る工夫を深く学びました。シルバーウィークの始めには、県内においても台風による災害が発生しました。防災や防犯は決して他人事ではなく、「自分事」として考えていかなければならない、待ったなしの状況となっています。

さて、同じく夏休み明けからは学校ホームページを活用して、子どもたちの日常の様子を紹介しています。

校内を歩き撮影していると、授業中に真剣な表情で課題に向き合う姿、友達と楽しそうに微笑み合う姿、休み時間に校庭を思い切り駆け回る姿、そして掃除の時間に黙々と自分の役割を果たす姿など、たくさんの素敵な場面に出会います。

学校には、行事のような大きな出来事だけでなく、誰にも気付かれなような小さな「ドラマ」が毎日生まれています。

友達が落とした物をさりげなく拾う姿、困っている友達にやさしく声をかける姿、誰に指示されなくても自分の係を担当する姿、うまくいかなくても諦めずにもう一度考える姿。そうした何気ない日常の行動や態度の中にこそ、子どもたちの確かな成長が表れています。大切なのは、「できた」「できなかった」という結果だけではなく、「まずやってみた」「失敗してももう一度挑戦した」という試行錯誤の経験そのものが、子どもたちの自信という大きな実りへとつながっていくのだと感じています。

これからの季節は、運動会や「くすのきスマイルデイ」をはじめ、目標に向かって取り組む様々な行事が続きます。行事では成果ばかりを求めがちですが、私たちが学校生活の中で最も大切にしたいのは、本番に至るまでの「過程」です。

練習の段階では、思うようにいかないことや、悔しい思いをして立ち止まることもあるかもしれません。それでも、「もう一回やってみよう」と一歩前へ踏み出すこと、その葛藤と克服の経験こそが、子どもたちを一回り大きく成長させます。また、仲間の頑張る姿に刺激を受け、「自分もやってみよう」と意欲を膨らませることもあります。行事という体験を通して、一人ひとりが自分なりの目標をもち、仲間とともに高め合い、協力する喜びを味わってほしいと願っています。

行事が終わった後や日々の振り返りの際には、ぜひご家庭でも温かい声かけをお願いします。「何位だった?」「うまくできた?」という結果の問いかけだけでなく、「どんなことを頑張ったの?」「どうやって取り組んだの?」と、そこに至るまでの過程や工夫に目を向けた言葉をかけてみてください。自分の努力や変化を認めてもらうことで、子ども自身が「自分自身の成長」に気付き、次の挑戦への大きな原動力となります。

これからも、学校ホームページでは、日々の当たり前の学校生活の中に潜む一場面を届けてまいります。ご家庭では見ることのできない「学校での子どもたちの真剣な姿・やさしい姿」を感じ取っていただき、ご家庭での会話のきっかけにいただければ幸いです。誰もが安心して挑戦し、自分自身を実らせることができる学校を目指し、教職員一同、力を合わせて教育活動に取り組んでまいります。今後とも、本校の教育活動へのご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。